

農協だより

2020.11月  
No.593

たいき

馬鈴薯の収穫風景  
2ページ～



年金友の会  
パークゴルフ大会  
3ページ～



インターンシップ  
作況圃場調査  
5ページ～





第2回

農業経営塾2020

「JAと組合員の関係・乳質、乳価等の仕組、畜産物制度、酪畜各種事業説明」

9月11日、JA大樹町において、6名の受講生が出席の下、第2回農業経営塾を行った。

午前の部は、企画管理課の池浦課長を講師に「JAと組合員の関係」をテーマとした講義を行った。

講義では、JAの規約を確認しながら正組合員の要件や協同組合の特徴について確認した。農協運営の話では、正組合員には与えられない権利のある共益権について説明し、正組合員になる重要性を説明した。



JAについての説明

午後の部は酪農振興課山田課長、前田祐吾氏、畜産販売課小坂和輝氏を講師に「乳質・乳価等の仕組、畜産物制度・酪畜各種事業説明」をテーマに講義を行った。

地域として高品質乳の出荷を目的に行っている乳質改善事業の仕組みや指定団体制度の歴史、乳代の仕組みについての説明と併せ、畜産物制度と各種事業説明を行った。

今回は11月上旬に「組勘取引・農協取引の締結と意味」と「営農計画書を作成しよう！（農産部門）」を行う予定。



乳価についての説明

馬鈴しょ収穫

馬鈴しょの収穫作業が昨年より1日遅い8月18日から始まった。

令和2年度作付面積は、生食・加工・澱原で135・84haとなっており、種子馬鈴しょは採種20品種91・34ha、原種23品種23・36haとなっている。

今年は全般的に大粒傾向で播種後の早魓が影響し塊茎数も少なく、一部品種では塊茎腐敗が多発している。種子馬鈴しょに至っては計画の製品数量を大きく下回る見込み。例年通り本州販売先に向けた種子馬鈴しょの撰果作業は、10月上旬からスタートを予定しているが、大粒比率の高い本年産は選別に苦慮する事が想定される。



キタアカリ



コンテナいっぱい



作業風景

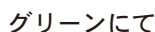
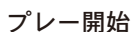
！AED講習会！

JA大樹町では、JAグループ北海道が9月6日を「JAグループ北海道 防災の日」と定める中、防災意識の徹底を図るため9月2日・8日のうち3日間、職員を対象とした災害対策AED研修をとかち広域消防局大樹消防署で行った。スクリーンで心肺蘇生法などを学んだ後、実技訓練用の人形を使って訓練用のAED操作を体験した。電気ショックを行うタイミングや操作手順が音声ガイドンズで流れるため初めてでも安心して使用可能。研修では、意識や呼吸のない方を発見した際、行動する勇気と呼吸がない場合の胸骨圧迫（心臓マッサージ）が大事なことを研修から学んだ。



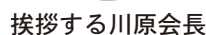
生産者の皆様にも自家発電機の自己点検などを定期的に行うなど、防災意識を再確認する時期としていただきたい。





参加した会員達は、「男性の部」、「女性の部」、「砂金の部」の3コースに分かれ、懇親を深めながらプレーした。

閉会式では、各都上位10名と特別賞、残念賞、飛賞の表彰式が行われ、残念ながら該当者がいなかったホールインワン賞については、川原会長とのじゃんけん大会を行い、



最後まで諦めず、コロナを吹き飛ばすよう元氣よくプレイし、楽しい一日にしていた。だいたい」と開会挨拶。また、J-Aを代表し坂井組合長より祝辞が述べられた。

勝者に手渡された。  
成績は次の通り。

## ○男性の部

優勝齊藤

準優勝 今井

3  
位  
山  
本

スコア 86

○ 女性の部

優勝牧田

準優勝  
山川

3  
位  
伊  
藤

スコア 92

年金友の会

スポーツの秋  
みんなで元気に！

第24回パークゴルフ大会

○砂金の部  
優勝

優勝西田

貞夫  
スコア  
61



準優勝 3位 萩原 丹羽

ス 敏 ス  
コ ア コ ア 晃  
65 62



# JJA大樹町 農業塾 海外農業視察研修

## 視察先 4

### キウイフルーツカントリー

ベイ・オブ・ブレンティー地方にあるキウイ農園内の観光施設の運営を行っているキウイフルーツ・カントリー社の視察では、キウイの形をした可愛い乗り物で、農園内を回るツアーに参加しました。農園の肥培管理、収穫作業等については、ロングリッジ農場という別会社が経営しているという、同じ敷地内に2つの会社が入る観光農園でした。農園内を回りながらキウイフルーツの歴史について学び、



キウイの形のゴンドラ

キウイの形のゴンドラ  
間45万tで、このベイ・オブ・ブレンティー地方でニュージーランドのキウイの80%を生産しており、その最大の輸出国が日本だと知りました。グリーンキウイの



場内を巡るようす

畑では、キウイ生産に必要な気候条件や収穫に必要な人の数、輸出先によって異なるニーズなど様々な知識を学びました。農園には昔からある樹齢42年の太い果樹もありました。話によると果樹の更新をすることがないようで、導入当時の果樹もあるとのことでした。木の幹を見ると、所々に皮が剥がされた部分があり、「環状剥皮（かんじょうはくくひ）」という処置で、効率的に果実へ栄養を行き渡らせることができるとのことでした。



展示されていたトラクター







囲いにより保護された育成樹

農園を囲む見上げるほどの高さの防風林も、摩擦に弱いキウイを育てるには必須で、小さな果実を守るさまざまな工夫が見られました。キウイの収穫期は4〜5月の10週間で、収穫作業は全て手摘みで行い、その労働力は海外から2万人もの労働者を雇い、収穫と選果作業を一齐に行っているそうです。収穫時の糖度は6・5程度で、硬いまま収穫する為、鳥による被害は無く対策も特に必要ないとのことでした。また、氷点ギリギリの温度で管理することで、9ヶ



キウイ樹の下で

立て方に移行しないのか尋ねたところ更新を行うようなことがあればとの回答でした。

全体の感想としては農場と観光の運営が別経営で、それでいて利益を上げられるほどの人が訪れていることに驚き、収穫期の労働力の確保の形は日本と違えど、似たようなもののだなと感じ、同じニュージーランドでも先に視察したアボカド農園とは対照的だなとも感じました。

担当…半谷 勇人  
森下 周平



Aフレーム仕立て

## 大学生対象インターンシップ

8月27日〜28日、大学生を対象としたインターンシップを開催し、11名の学生が全国各地から参加した。

1日目の午前中は大樹小学校で行った青年部食育事業に全員で参加した。午後からは牧場見学・乳牛市場・生産資材店舗・人工授精の4つに分かれ職業体験を行なった。

業務終了後は、晩成温泉に移動し、バーベキューを囲みながら懇親を深めた。

2日目の午前中は人工授精・作況調査・貯蓄共済課業務の3つに分かれ職業体験を行い、

午後からは生乳施設の業務と『雪印メグミルク大樹工場』について学んだ。

初めは緊張で堅くなっていた学生も、短い時間の中で仲間と協力し合い意欲的に取り組んでいくうちに、仲間意識が生まれていた。また、天候も崩れることなく無事に農協の業務を体験することが出来た。

大学生を対象としたインターンシップは令和3年2月末にも一日開催予定。

担当…企画管理課  
角田 真理奈



生乳検査室にて



生産資材店舗にて

農業をリードする北海道の専門誌

# ニューカントリー

道内農業者と共に67年。「潮流」「農政の裏側」コーナーでは最新の農政問題を道内向けに分かりやすく解説。「技術特集」コーナーでは省力化技術から、湿害対策、野菜収穫機、新規作物など注目技術を紹介。自動操舵システムの連載の他、農家の生活に密着した「いきいき夢家族」「マイホーム拝見」「クッキングたいむ」などのコーナーも人気です。この機会に、ぜひご購読ください。



年間 購読料 19,263円(増刊込・年14冊)

●通常号 943円 送料154円  
●新年号 1,205円 送料205円

●夏増刊号 1,466円 送料134円  
●秋増刊号 3,981円 送料205円  
税10%込

購読をご希望の方は、以下にご記入の上 F A X 下さい。

北海道協同組合通信社／デーリィマン社管理部 行き **F A X 011-271-5515**

## ニューカントリー購読申込書

申込年月日 年 月 日

氏名・電話番号・住所を記入し、支払い方法・増刊号の有無に☑をつけてください。

氏名

T E L

住所 〒

☑を入れてください

☐ クミカン (クミカンNo. ) ☐ J A 貯金口座 (普通口座No. )

増刊号の申込み ☐ あり ☐ なし



お問合せ  
ご注文先

こちらの用紙でお申し込みの方は、初回2ヵ月分無料です！

(株)北海道協同組合通信社・デーリィマン社

〒060-0004 札幌市中央区北4条西13丁目 TEL011-209-1003 FAX011-271-5515

E-mail kanri@dairyman.co.jp URL <http://dairyman.aispr.jp/>



## 十勝農業改良普及センター 十勝南部支所通信

### 酪農場・畜産農場における防疫対策

～牛サルモネラ症を中心とした伝染病対策（4回目：農場への侵入防止③）～

今回は農場への病原菌侵入防止対策3回目です。

前回までは、農場内を出入りする時のルール（農場を守る4箇条）のうち、①～③を紹介しました。今回は④野生動物の侵入防止について紹介します。

生産者自身は、牛舎の衛生管理や飼養管理をきちんと行っているにもかかわらず、サルモネラ採材検査において、環境検査で陽性が出る場合があります。その一つに野生動物の侵入も考えられます。

カラス・ハト・スズメなどの野鳥やネズミ・キツネといったよく見かける野生動物は、乳牛の生活環境に病原菌を持ち込みます。畜舎への侵入や接近を積極的に防ぎましょう。

### 防鳥ネット(侵入させない)



- ・吊り下げ式で、カーテンのように牛舎の端から端まで開閉可能
- ・ネットの両端をアルミのポールで支持。柱の釘にカラビナをかけて隙間が出来ないように閉じる
- ・ネットのすその鎖が重りとなり、めくれ上がらない



- ・パイプの枠と防鳥ネットを結束バンドで組み合わせ、既存のゲートに固定した事例（写真左）
- ・新築牛舎のスライド扉全面を防鳥ネット張りにした事例（写真右）

### 畜舎内外の環境整備(接近させない・誘引しない)



- ・畜舎周辺の草刈り、不要物撤去  
野生動物が身を隠す場所をなくす
- ・畜舎内の清掃と胎盤処理  
野生動物が好むものを放置しない



次回は「農場内での拡散防止」について説明する予定です。

# JAグループ通信

## JA北海道中央会



本年9月6日で北海道胆振東部地震の発生から丸2年が経ちました。

JAグループ北海道では、2年前の大災害を風化させないよう、毎年9月6日をJAグループ北海道「防災の日」と定め、改めてJA・組合員の防災意識の向上や今後の災害への備え、施設補強、自家発電機の一斉点検等の推進を致します。また、9月1日から9月6日を「防災期間」として位置付け、全道の組合員に呼びかけ、自家発電機やハウス等の一斉点検に取り組んでいただきました。

新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策に取り組むだけでなく、地震や台風などの自然災害に対する危機意識や防災意識を高めることも、安全安心に暮らす上で、また日々の営農においても必要不可欠です。

JAグループ北海道では、今後も予測不能な災害に備えるため、防災対策を推進していきます。



## JA北海道信連



JAと北海道信連との間で相互に職員を出向派遣させる、人事交流を平成22年度から実施しています。先ごろ、第5回の人事交流（2年間）が終了しました。今回は、JA北ひびき1名、JA鹿追町1名の職員が北海道信連へ、北海道信連から各JAに1名ずつの職員が出向する形で人事交流を行いました。これらの人事交流を通じて、JAバンク北海道の体制・機能強化と人材育成を図ることとしています。



## JA共済連北海道



近年の、道路運送車両法の運用見直しに伴い、農耕用トラクターに作業機を装着した場合でも、条件を満たせば公道を走行できるように緩和されました。

ただし、走行時には作業機の後方面に規制緩和対象であることの『制限標識』を表示することが必要となります。そこで、JA共済連では、『運行速度時速15キロ以下』などと記載された『制限標識』を配布する事と致しました。これにより、接触事故・死亡事故の防止やトラクターの安全な走行に寄与出来ることを期待しております。



## ホクレン



ホクレンとカルビー株式会社は8月5日、馬鈴しょをはじめとする北海道産農産物の振興に向けた包括連携協定の調印式を札幌で開きました。式では、ホクレンの篠原末治会長（写真右）、カルビーの伊藤秀二社長がそれぞれ、双方の強みを生かした事業展開に向けた意欲を語り、その第一弾として、ホクレンの「よくねたいも」を原料に開発したポテトチップスの新商品の発売を発表しました。



## JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。







知って納得！ 税金講座

J A 全中・J A まちづくり情報センター 顧問税理士 ● 柴原 一

## 低未利用土地等を譲渡した場合の特別控除

今回の改正では、長期間利用されていない未利用地や、周辺地域の利用状況に比べ利用の程度が低い資材置き場などの低利用地について、その活用を促進し地域の価値向上を支援するため、低未利用土地等を譲渡した場合の長期譲渡所得の特別控除の特例が創設されました。具体的には、個人が所有期間5年超の都市計画区域内にある未利用地、低利用地、または、その上に存する権利（低未利用土地等）を譲渡した場合には、譲渡益（＝売却収入－取得費－譲渡費用）から100万円が控除されます。なお、譲渡益が100万円に満たない場合には、その譲渡益相当額が控除額になります。



この特例の適用を受けるためには「譲渡年の1月1日における所有

期間が5年超である土地等の譲渡であること」「低未利用土地等の上にある建物等を含めた譲渡対価の額が500万円以下であること」「都市計画区域内にある低未利用土地等であることにつき市区町村長の確認を受けたものであること」「譲渡後に買い手が低未利用土地等を利用することにつき市区町村長の確認を受けたものであること」などの要件を満たさなければなりません。

また、1筆の低未利用土地等を分筆し、分筆した土地の内、1つを売却してこの特例の適用を受けた場合、適用年の翌年または翌々年に残りの土地を売却し、その土地が前記の要件を満たしたとしても、その土地の譲渡に関してはこの特例の適用はできません。ただし、もともと1筆の土地である複数の土地を売却する場合には、その年にまとめて売却してしまうと100万円の控除しか受けられませんが、年を分けて売却した場合にはその土地ごとに100万円の控除を受けることができます。

この特例は、2020年7月1日から2022年12月31日までの譲渡について適用されます。

## 理事会の動き

## 第8回 9/28

## ★報告事項

- 1 令和2年度北海道肉用牛経営安定対策補完事業の実施について
- 2 農作物生育状況定期調査結果について
- 3 農産物出荷状況について
- 4 令和2年産豆類の取扱について
- 5 CCS定期確認について
- 6 理事に対する資金の貸付について
- 7 組合員の異動について
- 8 余裕金の運用状況について
- 9 みのり監査法人による期中監査Iの概要報告について
- 10 令和2年度決算の見通しについて

## ★付議事項

- 第1号 固定資産の取得について

協議・承認

- 第2号 職員就業規則及び職員就業規則の改正について

協議・承認

## ★協議事項

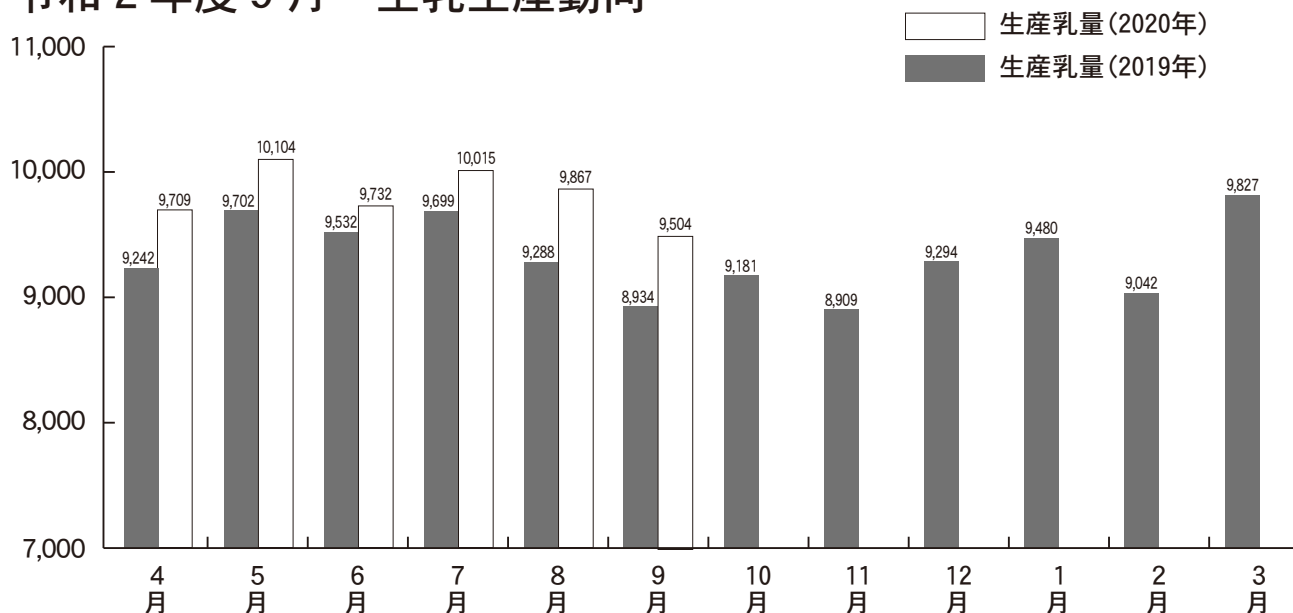
- 第1 役員選挙制度審議会諮問事項について

協議



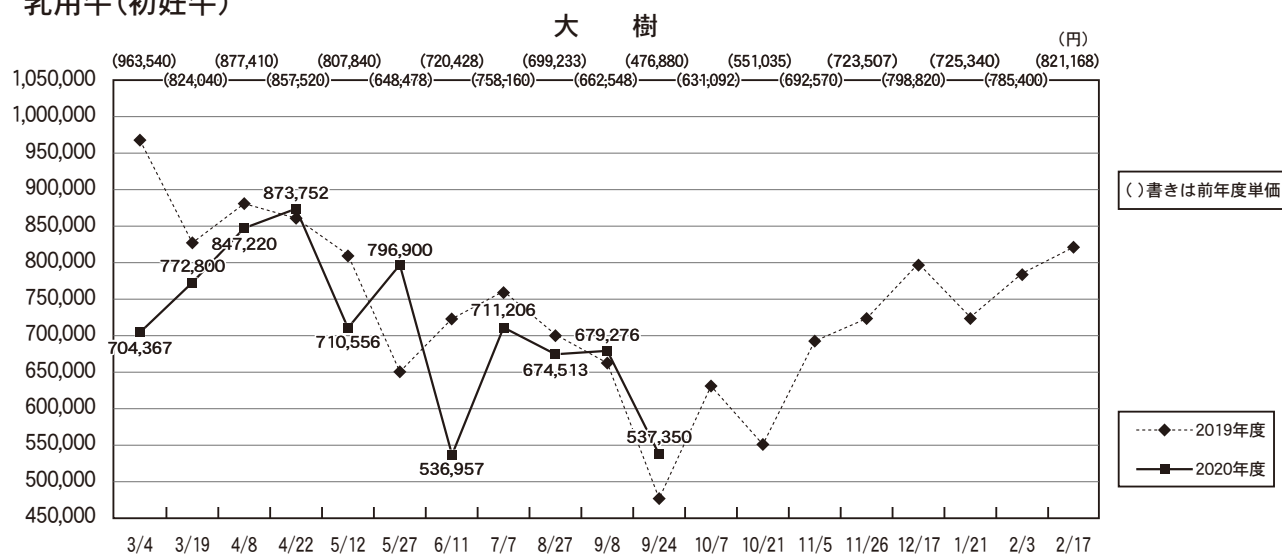


## 令和2年度9月 生乳生産動向

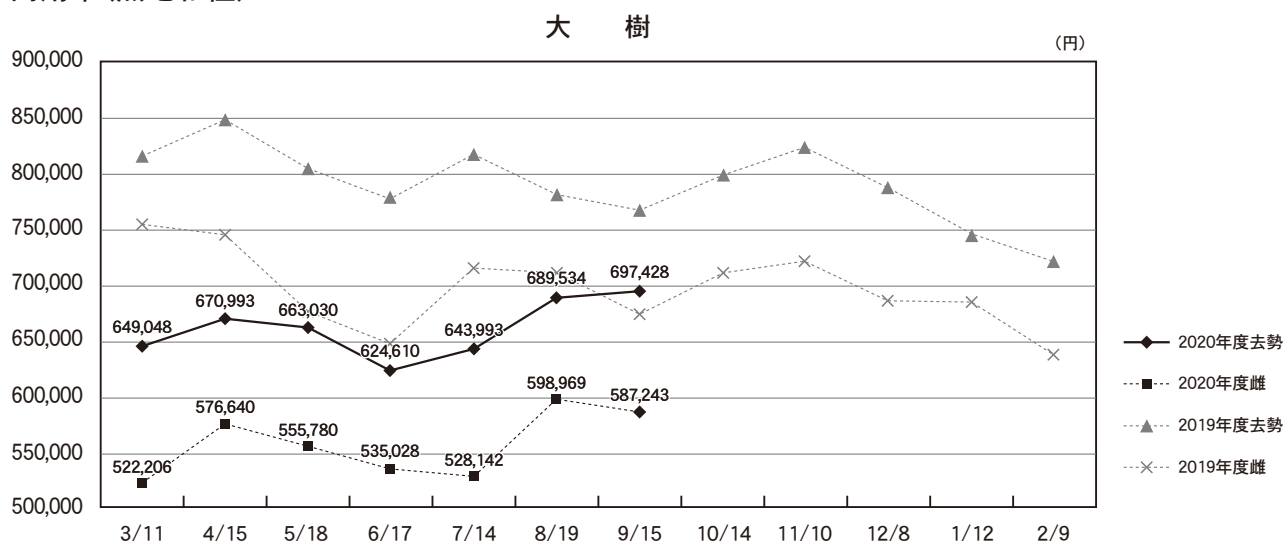


## 家畜市場の成績

### 乳用牛(初妊牛)



### 肉用牛(黒毛和種)









未来を拓く協同組合 教えて! 日本農業

未来を拓く協同組合

教えて! 日本農業

監修-JCA(日本協同組合連合機構)



食料自給率

食料自給率は、わが国の食料全体の供給に対する国内生産の割合を示す指標です。特に、供給熱量(カロリー)ベースの食料自給率は、米の消費が減少するなどの食生活の変化により、長期的に低下傾向が続いてきました。2019年度は前年度より1ポイント増の38%となりましたが、依然として低水準にとどまっています。

一方、生産額ベースの自給率は66%で、カロリーベースより30ポイントほど高くなっています。これは国内において、カロリーベースでは数値として反映されにくい野菜などの自給率が高いためです。しかし、生産額ベースの自給率も長期的に見て低下傾向にあります。

将来にわたって食料を安定的に確保するためには、食料自給率を高めることが重要であり、JAグループは、水田をはじめとした農地の活用や保全対策など生産基盤の強化や、国産需要の拡大を目指し、実需者との多様な契約方式による生産・販売の拡大などに取り組んでいます。

食料自給率の推移



2030年度の目標 カロリーベース 45% 生産額ベース 75%

2019年度の自給率

カロリーベース	38%	1人1日当たり国産供給熱量(918kcal) / 1人1日当たり供給熱量(2,426kcal)
生産額ベース	66%	食料の国内生産額(10.3兆円) / 食料の国内消費仕向額(15.8兆円)

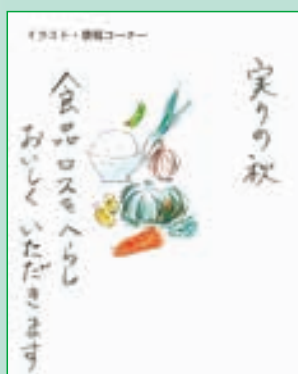
- 供給熱量(カロリー)ベース食料自給率: 基礎的な栄養価であるエネルギー(カロリー)に着目して、国民に供給される熱量(総供給熱量)に対する国内生産の割合を示す指標
- 生産額ベース食料自給率: 経済的価値に着目して、国民に供給される食料の生産額(食料の国内消費仕向額)に対する国内生産の割合を示す指標

農水省資料をもとに作成

耕ぞう、大地と地域の未来。

イラスト・情報コーナー

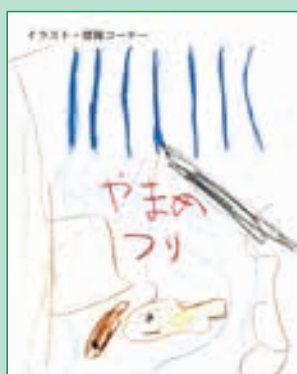
イラストは濃くていいに書いて下さい。  
(あまり薄いと掲載出来ないことがあります。)



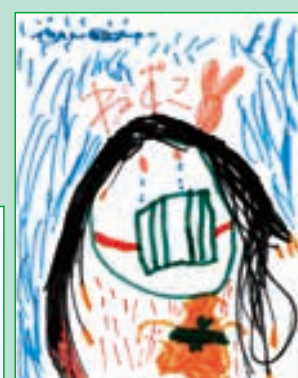
開進 島田 範子さん



上大樹 高橋 琴葉ちゃん(7歳)



大光 たかだ きらとくん(7歳)



下大樹 みき ひなちゃん(4歳)